

平成29年度・第2学期終業式校長式辞

H29・12・22（金）

こうして舞台の上から改めて皆さんの姿を眺めています。ずいぶん立派になりましたね。4月や7月の始業式や終業式の姿も立派でしたが、更に立派な態度で式を迎えられています。本当に皆さんの成長が嬉しいです。

本日、無事に2学期終業式を迎えることができました。そして平成29年度もあと3ヶ月を残すのみとなりました。1年生、まもなく君たちも先輩となります。今、君たちが先輩を見ているように後輩から見られる立場になります。先輩と呼ばれるだけの先輩にならないようにしてくださいね。2年生、君たちはいよいよ3年生になります。来年は今、君たちの横にいる3年生と同じ立場になります。自分自身の力で進路を決めねばならない時が近づいてきました。君たちの進路は誰も助けてくれません。自分自身で切り開いていくのです。そして3年生、もうすぐこの西中ともお別れの時が近づいてきました。そして進路決定の時を迎えました。ここまでやりたいことも我慢して勉強を頑張ってきましたね。その成果をいよいよ発揮する時です。健闘を期待しています。

今日は皆さんに私が感動したことをお伝えします。それは今、3年生との2回目の校長面接の時に起こりました。多くの3年生に私はこんな質問をしました。「あなたの尊敬する人は誰ですか・・・」ほとんどの人は親、兄弟、先生、先輩、偉人などの具体的な名前を挙げてくれました。その中である一人の生徒がこう答えてくれました。「ごめんなさいを言える人です」・・・。私はその思いがけない返答に驚き、次の言葉がなかなか出てきませんでした。それは私もごめんなさいという言葉が簡単に言うことができないからでした。ごめんなさいとは、自分の非や負けをすべて認めるという宣言です。これはなかなか言える言葉ではありません。何か失敗した時、私だけではないからとか皆もやっているからとか誰もが言い訳をしようとしみます。または話し相手に対して敵意を持つことさえあります。誰もが簡単に素直にごめんなさいは言えません。大人になるともつと言えなくなります。そのことを理解した上で尊敬する人として答えてくれたその生徒の心の豊かさや感性の素晴らしさを感じます。普段、忘れかけていた大切なことを思い出させてくれた校長面接のその生徒に心から感謝です。

余談ですが、今年の10大ニュースの1位に中学生棋士の藤井聡太四段のプロ棋士としての29連勝が選ばれました。将棋という競技はとても奥が深く心を鍛えるには最適な競技だと思っています。将棋には基本的に引き分けがありません。どんなに年齢が違っても負けた側は勝った側に「負けました」と宣言しなければなりません。更に対局後は感想戦といってもう一度手順を振り返り、対局を検討し合う場が設けられています。負けた側は傷口をえぐられるような悔

しさを再度味わうことになるのです。そういった中でも勝った側への敬意や礼儀や作法やマナーを徹底しながら自分の心を強くしていくのです。

4月からの約9ヶ月、1年生から3年生まで着実に心が成長しています。そして学校全体が落ち着いた学習の場になってきています。2学期の皆さんの成長に喜びと感謝の気持ちを持ちながら、迎える平成30年が本校にとって更に飛躍の年となることを願い、2学期終業式の式辞とします。